



国際線地区の将来イメージ [提供：福岡国際空港㈱]

経済界、自治体との連携で地域の魅力を上げていくことが不可欠になってきます。いろいろな施設が整っていけば、さらに路線網が広がる可能性が出てくるでしょうね。

福岡空港は都市圏に非常に近い空港ですが、国際線ターミナルは、その良さを活かしきれないと感じます。国際線ターミナルは非常に遠いと感じるのです。これについてはいかがですか。

永竿 ● もちろん改善を進めます。現在は国内線ターミナルと国際線ターミナルは両者を結ぶ連絡バスで行き来できますが、皆さん大きなスーツケースを抱えており、場合によってはバスに乗り切れず、若干積み残しが出て、ご不便をおかけしています。それを解消するために、2020年に連絡バスを導入します。また、現在連絡バスが通る道は一般車も走る部分もあり、途中で信号やゲートがあり、片道10〜15分ほどかかります。そこで連絡バスの専用道を空港の敷地内に整備します。これによって乗車時間を5分に短縮できます。自動運転車も導入しようと考えています。

エアポートシティを創出

石田 ● 国際線ターミナルも外国人観光客を受け入れる九州の玄関口にふさわしいものができそうですね。

マスタープランには「エアポートシティの実現」が掲げられています。単なる空港ではなく、ひとつの街を創造されようとしている

のですね。

永竿 ● はい。五つ星ホテルやオフィス、大規模商業施設などをつくり、にぎわいを生み出したいと考えています。都心に近い空港なので、エンターテインメント性を高めて、空港自体が目的地になるようにしたいと考えています。

石田 ● つまり、空港を飛行機の乗降客だけでなく、友達や家族と遊びに来れる場所にするということですか。それはすばらしい考えです。都市圏からの交通の便はいいし、活気ある福岡・九州の顔として最適だと思います。それにはチャンギ国際空港が非常に参考になりますね。

永竿 ● はい。チャンギ国際空港は、東南アジアにおける最大の交通結節点であるだけでなく、効率的なオペレーション、快適な施設や設備、様々な飲食店やショッピングスポットと、ビル事業もかなりやっている空港です。市内からも近い空港なので一緒にいろいろなことを考えたいと思っています。

石田 ● 空港の中に映画館やプールであり、まるでテーマパークのようです。お金を使わなくても楽しめる催し物もたくさんあり、至る所に楽しんでもらおうとする熱意を感じますね。

永竿 ● そうですね。福岡空港も、気楽に来ていただける、来たら楽しい、また行こう、という場所にしたいですね。きっとそういう場所になれると思います。皆さん飛行機に乗る